

Qualys TruConfirm: 確かな証拠でリスクを低減。

Qualys Enterprise TruRisk Management に組み込まれた、エージェント主導の安全なエクスプロイト検証機能。

組織には、あらゆる問題を解決するための時間、予算、人材がありません。そうでないふりをすると、リスク管理プログラムは停滞してしまいます。セキュリティチームは「重大な」発見に埋もれてしまいますが、実際に悪用可能なリスクは、適切な対策を講じた上で、はるかに少ないのです。つまり、本当に問われるべきは、どのリスクが今すぐに悪用可能で、どのリスクが既に軽減されているのか、ということです。

バージョンベースの検出、静的な深読度スコア、そして仮定に基づいたダッシュボードでは、この問いに答えることはできません。BAS ツールは導入時の摩擦を増やし、実際の本番環境外で攻撃をシミュレートします。そして、チームが運用環境で悪用可能性や制御の有効性を安全に証明できないため、発見事項は未解決のままとなり、議論は長引き、リスクにさらされる期間が拡大します。

TruConfirm のご紹介

Qualys TruConfirm は、Qualys Enterprise TruRisk Management (ETM) に標準搭載された機能で、Agent Val の力を借りて、理論的なリスク管理から、エビデンスに基づいた検証済みの実行へと移行します。TruConfirm は、本番環境で安全なペイロードを使用した攻撃手法を用いて、展開済みの制御に対して、高リスクの脆弱性が実際に悪用可能かどうかを安全に検証します。

到達可能なもの、ブロックされているもの、そして実際に悪用可能なものを確認し、決定論的な証拠を ETM に直接提供して、対策を講じます。1 万件もの「重大な」発見事項を追いかける代わりに、チームは稼働時間を中断することなく、数分で数百件の確認済みリスクに絞り込むことができます。リスクを確実に低減できる箇所に、最小限の修復作業で対応できます。

誤検知の抑制

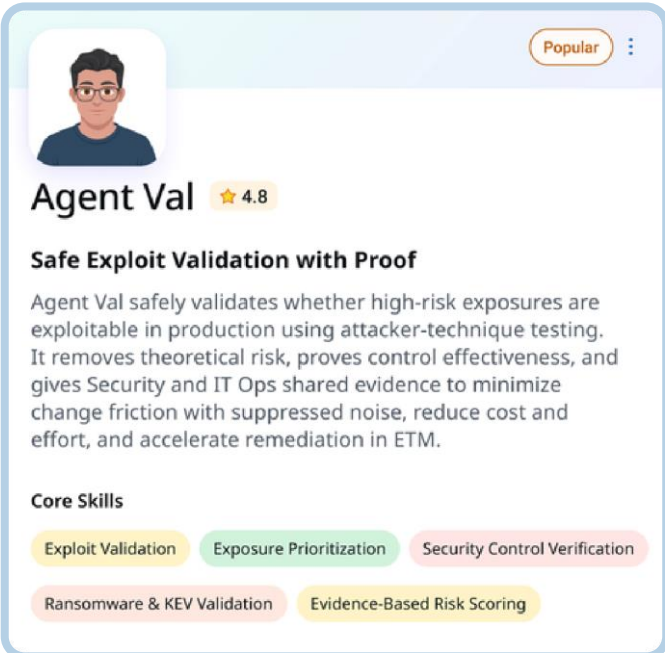
どの「重大な」検出結果がアクセス不能または制御によってブロックされているかを証明することで、誤検知を抑制します。これにより、チームは悪用不可能なリスクを追いかける必要がなくなります。

悪用可能な資産の確認

本番環境における実際の攻撃経路を安全に検証し、理論上の深読度ではなく、真に悪用可能で対策が必要な資産を特定します。

証拠に基づく迅速な修復

検証結果を証拠に基づいた修復につなげることで、クリティカルアドバイザリーボード (CAB) の摩擦を軽減し、IT 部門とセキュリティ部門の連携を強化し、TruRisk を測定可能な形で低減します。



Popular

Agent Val ★ 4.8

Safe Exploit Validation with Proof

Agent Val safely validates whether high-risk exposures are exploitable in production using attacker-technique testing. It removes theoretical risk, proves control effectiveness, and gives Security and IT Ops shared evidence to minimize change friction with suppressed noise, reduce cost and effort, and accelerate remediation in ETM.

Core Skills

- Exploit Validation
- Exposure Prioritization
- Security Control Verification
- Ransomware & KEV Validation
- Evidence-Based Risk Scoring

Agent Val による継続的な検証

TruConfirm を大規模に運用するには、高リスクの脆弱性を自動的に選択し、稼働中の資産に対して安全なエクスプロイト検証を実行し、最小限の手作業で ETM 内で証拠に基づいた修復を実施します。

マルチモーダルな脆弱性検証

直接応答実行、暗号学的実行証明、および帯域外コールバックを用いて、攻撃者が到達可能な経路を検証し、実際の脆弱性を安全に確認します。

安全性を最優先した本番環境向けガードレール

安全なペイロード、事前検証チェック、ゼロフットプリント実行、非同期検証など、本番環境向けに設計されています。システム停止なし。データ漏洩なし。

攻撃者の実態を網羅

攻撃者が悪用する脆弱性 (CVE) や実際の攻撃手法を網羅した検証範囲を継続的に拡大し、スキャナーが「重大」と判定する脆弱性ではなく、攻撃者が実際に悪用する脆弱性に焦点を当てます。

リスクエクスポージャー管理から、エビデンスに基づいたリスク軽減へと移行しましょう。Qualys Enterprise TruRisk Management と TruConfirm を体験してください。

今すぐトライ